

すべての先生が教え方日本一を目指そう

—第10回全国模擬授業大会10周年記念大会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：今年も全国模擬授業大会を開催したそうですね。

A：(林明夫。以下略)

- (1) はい。2015年5月24日(日)に栃木県足利市にある白鷗大学足利高等学校富田キャンパスをお借りして、第10回全国模擬授業大会10周年記念大会として開催しました。開倫塾が主催させていただきました。
- (2) 今年は10周年記念大会でしたので、プレイベントとして前日の5月23日(土)午後2時から6時まで足利市研修センターで教科内容の指導以外の模擬プレゼンテーション大会と認知心理学の基本についての記念講演会・パネルディスカッション、6時半から歓迎懇親会も開催しました。
- (3) 大会翌日の5月25日(月)は、午前9時より大型バスで、足利市、佐野市、栃木市にある開倫塾の5つの校舎を見学(スクール・コンパリゾン)、午後1時半から3時までは関東地方唯一の女子刑務所である栃木刑務所を視察。基礎教育の重要性を再認識致しました。
- (4) 5月23日のプレイベントの開会式では、開倫ユネスコ協会の名誉会長であり、経済産業大臣をお務めになった自由民主党選挙対策委員長・衆議院議員の茂木敏充先生が、これからの日本、これからの世界とは何かについて基調講演をしてくださいました。
- (5) また、5月24日の大会の開会式では、前文部科学大臣政務官で参議院議員の上野通子先生が教育改革について基調講演をしてくださいました。
- (6) 開会式では、地元の足利市立富田中学校の音楽部の生徒さんが美しい音色の琴の合奏をしてくださいました。また、白鷗大学足利高校校長の岡部宣男先生から歓迎のご挨拶をいただきました。
- (7) 文部科学大臣の下村博文先生と衆議院議員の船田元先生からは祝電を、文字文化推進機構理事長の肥田美千代先生からは暖かいメッセージをいただきました。
- (8) 審査委員として37名の先生方が厳正な審査に当たってくださいました。審査委員長である野田塾塾長の小川英範先生からは講評をいただきました。今年は26名の小学生と高校生の学生審査委員が予選の審査に参加、予選の各教室ごとに「私が一番教わりたい先生」を選出していただきました。
- (9) 今大会には60以上の団体、3日間で延べ700名以上の方々が参加。24日の模擬授業大会には58名が出場しました。23日のプレ模擬授業大会には12名が出場。2日合計で70名の方が模擬授業をなさいました。

(10)24 日(日)の夜には、2 回目の懇親会を足利市にあるココファーム・ワイナリーで開催し、親交を深めました。

Q：プレイベント・本大会・アフターイベントとかなり本格的な大会なのですね。

A：せっかく全国各地から全国模擬授業大会のために足利市においでいただくのでしたら、充実した時間をお過ごしいただきたいと思います、前日の催し、当日、アフターコンベンションと 3 日間にわたる様々な企画をさせていただきました。

Q：全国模擬授業大会のねらいは何ですか。

A：(1)「チョーク 1 本で教育改革を」です。

(2)私は、「教育改革はチョーク 1 本で可能だ」と確信しています。

(3)日本国中の先生と言われる方々が、教え方の工夫を毎日のようにし続け、毎日の授業を充実させ続ければ、教育は必ず素晴らしいものになると確信します。

(4)そのためには、「ベストプラクティスのベンチマーキング」、素晴らしい授業を直接見せていただいて参考にさせていただくことが最も効果的と考え、全国模擬授業大会を企画させていただきました。

(5)この大会に出場なさる多くの学習塾では、塾内予選を早いところでは 1 月から行っているそうです。塾内予選で各塾代表として選出された先生方は、事前に何回も模擬授業を行い、改善に改善を加えて大会当日を迎えています。そのため、御覧になっていただければ、どなたにもすぐにおわかりになると思いますが、どの授業も甲乙つけがたい素晴らしいものばかりです。

(6)「授業の設計」をしっかりしたあと、その内容を「教案(レッスンプラン)」に落とし込み、白と赤、黄のチョークのみを用いて各教科で最も指導が難しいと言われる「授業の導入」部分を 15 分かけて行う。これがこの全国模擬授業大会です。授業の最初には、対象者のレベルやその日の指導目標(到達目標)を Can Do(キャン・ドゥ)のようなかたちで明確に示し、また、授業の中に生徒の中の「自覚を促す」のような内容を織り込むようお願いしております。

Q：かなり内容の濃い15分間の全国模擬授業大会なのですね。

A：(1)はい。その通りです。自塾の中でこの模擬授業大会の予選に参加したり、本大会に自塾代表として直接参加することが、自分の教え方を大幅に向上させるのに役立つと考えます。

(2)また、自塾の中での予選や本大会を見学することも教え方の向上にとっても役立ちます。熱心な、また、優れた授業にじかに触れることで、向上心が刺激されるからです。

(3)模擬授業大会は導入部分の教え方に関する「ベストプラクティスのベンチマーク」の場としてとても役立ちます。この模擬授業大会で素晴らしい授業に直接触れたあとは、各先生が毎日の授業に創意工夫を凝らして「自分なりの教え方日本一」を目指していただく番となります。

(4)先生としての自分の潜在能力を自分の力で発見し、自分の力で限りなくどんどん伸ばすことが、良い授業に直結します。このような高い志を持つ先生こそが、自塾の教育や地域の教育、日本の教育を良いものにしていきます。

(5)「学力」とは「主体的に学ぶ力」だと私は考えます。生徒に「主体的に学ぶ力」を身に着けることを指導すると同時に、「先生として主体的に学ぶ力」を身に着けることが大切です。そのために、この全国模擬授業大会が少しでもお役に立てればと願っています。

(6)来年の第 11 回全国模擬授業大会は 2016 年 5 月 22 日(日)を予定していますので、是非御参加の栄を賜りたくお願い致します。

(7)なお、審査委員長をお願いしている小川英範先生が塾長であられる野田塾主催の「全国模擬授業大会 in 名古屋」は本年 10 月 25 日(日)に名古屋市で開催されます。是非多くの皆様が御参加くださいますようお願い致します。

(8)このようなかたちの模擬授業大会が全国各地で開催され、ひとりひとりの先生が自分なりの「教え方日本一」を目指し、日々精進することが、日本の教育改革に繋がります。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：是非、先生方の塾内・学校内でも定期的に模擬授業大会を実施し、切磋琢磨の場をおつくりください。時間は 15 分、使ってよいのはチョーク 3 本まで、レジュメは 1 枚のみなどルールだけ簡単にお決めになり、対象やテーマは自由に設定されて自由自在に模擬授業を行うことが、組織の活性化に役立ちます。「学習する組織づくり」にも結び付きます。

年に何回かは志を同じくする塾や予備校、私立学校の先生と合同で模擬授業大会を開催し、終了後にはソフトドリンクを片手に意見交換会を行えば、励まし合う仲間ができ、先生として生きる喜びも生まれます。

有名な学校へ〇〇名合格、就職率〇〇%などの目標設定も大切ですが、たとえば、ひとりひとりの先生が自分なりの「教え方日本一」を目指すという組織づくりも大切と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)イノベーションの第一歩は「ベストプラクティスのベンチマーキング」です。第二歩は自らの潜在能力を最大活用しての創意工夫です。第三歩はその横展開で自らの組織や社会をガラリと変えることだと考えます。イノベーションの担い手がリーダーで、それを金融面で支え、信用を供与するのが銀行です。この資本主義の基本的な仕組みをよく理解した上で、「ビジネスモデルのイノベーション」に励むことが、教育業界をおおっている閉塞感を打ち破るものと考えます。

(2)そこで、今月のお勧めの 1 冊は、まだ、日本語訳は出ていませんが、欧米でのベストセラーの「The Second Machine Age – Work, Progress, and Prosperity in a Time of Brilliant Technologies」。著者は Erik Brynjolfsson と Andrew McAfee の 2 人の MIT(マサチューセッツ工科大学)の先生方です。この「セカンドマシンエイジ」を、是非、御一読ください。